

結果の概要

I 世帯の状況

1 父母及び保護者の状況

(1) 父母の有無・同別居別にみた世帯の状況

父母の有無・同別居別にみた世帯の状況について、それぞれ世帯数の構成割合をみると、「父母ともいる」世帯は91.6%（前回（平成11年12月1日調査、以下同じ。）93.6%）で「父母とも同居」している世帯は88.2%（前回90.5%）、「母がいない」世帯は1.2%（前回1.1%）で「父同居」の世帯は1.2%（前回1.1%）、「父がいない」世帯は6.9%（前回5.2%）で「母同居」の世帯は6.8%（前回5.2%）、「父母ともいない」世帯は0.1%（前回0.0%）となっている。

また、それぞれ児童数の構成割合をみると、「父母ともいる」世帯は92.6%（前回94.7%）、「母がいない」世帯は1.2%（前回0.9%）、「父がいない」世帯は6.0%（前回4.4%）、「父母ともいない」世帯は0.1%（前回0.0%）となっている。

なお、1世帯当たり平均児童数をみると、1.77人（前回1.78人）で、これを父母の有無別にみると、「父母ともいる」世帯は1.79人（前回1.80人）、「母がいない」世帯は1.71人（前回1.45人）、「父がいない」世帯は1.55人（前回1.49人）、「父母ともいない」世帯は1.00人（前回1.00人）となっている。（表1）

表1 父母の有無・同別居別にみた世帯の状況

父母の有無・同別居	平成6年			平成11年			平成16年		
	世帯数の 構成割合 (%)	児童数の 構成割合 (%)	1世帯 当たり 平均児童数 (人)	世帯数の 構成割合 (%)	児童数の 構成割合 (%)	1世帯 当たり 平均児童数 (人)	世帯数 の 構成割合	児童数 の 構成割合	1世帯 当たり 平均児童数
総 数	100.0	100.0	1.81	100.0	100.0	1.78	1,376 (100.0%)	2,433 (100.0%)	1.77
父母ともいる	94.5	95.4	1.82	93.6	94.7	1.80	1,260 (91.6)	2,252 (92.6)	1.79
父母とも同居	91.8	92.8	1.83	90.5	91.9	1.81	1,213 (88.2)	2,178 (89.5)	1.80
父同居・母別居	0.4	0.4	1.90	0.4	0.4	2.00	10 (0.7)	15 (0.6)	1.50
父別居・母同居	2.2	2.1	1.75	2.5	2.2	1.54	37 (2.7)	59 (2.4)	1.59
父母とも別居	0.2	0.1	1.00	0.2	0.1	1.00	—	—	—
母がいない	0.9	0.8	1.52	1.1	0.9	1.45	17 (1.2)	29 (1.2)	1.71
父同居	0.8	0.7	1.52	1.1	0.9	1.45	17 (1.2)	29 (1.2)	1.71
父別居	0.1	0.1	1.50	—	—	—	—	—	—
父がいない	4.5	3.8	1.51	5.2	4.4	1.49	95 (6.9)	147 (6.0)	1.55
母同居	4.2	3.6	1.53	5.2	4.4	1.49	94 (6.8)	146 (6.0)	1.55
母別居	0.3	0.2	1.25	—	—	—	1 (0.1)	1 (0.0)	1.00
父母ともいない	0.1	0.1	1.50	0.0	0.0	1.00	2 (0.1)	2 (0.1)	1.00

注) 「総数」には「不詳」を含む。

(2) 保護者の種類・年齢階級別にみた世帯の状況

保護者の種類・年齢階級別にみた世帯の状況をみると、児童の保護者は、「父母」が99.8%、「祖父母」が0.1%、「おじ・おば」が0.1%となっており、保護者のほとんどが「父母」である。
また、保護者の年齢をみると、「40～44歳」が23.8%（前回21.4%）と最も多く、次いで「35～39歳」の21.5%（前回19.4%）、「45～49歳」の19.0%（前回19.9%）、「30～34歳」の13.7%（前回16.5%）などの順になっており、平均年齢は41.8歳（前回40.8歳）となっている。（表2）

表2 保護者の種類・年齢階級別にみた世帯の状況

保護者の年齢階級	平成6年	平成11年	平成16年			
	総数	総数	総数	父 母	祖 父 母	おじ・おば
総 数	(%) 100.0	(%) 100.0	(世帯) 1,376 (100.0%)	(世帯) 1,373 (99.8%)	(世帯) (0.1%)	(世帯) (0.1%)
30歳未満	6.8	7.9	(86)	(86)	—	—
30～34歳	13.9	16.5	(188)	(188)	—	—
35～39歳	19.0	19.4	(296)	(296)	—	—
40～44歳	27.6	21.4	(327)	(327)	—	—
45～49歳	23.1	19.9	(262)	(262)	—	—
50～54歳	7.1	12.1	(149)	(149)	—	—
55～59歳	1.8	2.0	(46)	(46)	—	—
60歳以上	0.6	0.7	(6)	(4)	(100.0)	(100.0)
不 詳	0.1	0.1	(15)	(15)	—	—
平均年齢(歳)	40.7	40.8	41.8	41.8	66.0	64.0

注) 1. 保護者の「18歳以上の兄・姉」、「その他」（里親を含む）は客体がないため計上していない。
2. 保護者の種類の「総数」には「不詳」を含む。

(3) 「父母とも同居」している世帯の父母の就労状況別にみた世帯の状況

「父母とも同居」している世帯の父母の就労状況別にみた世帯の状況をみると、父の97.9%（前回99.3%）、母の55.0%（前回52.0%）が就労しており、いわゆる「共働き」世帯（「父母とも就労している世帯」、以下同じ。）は54.3%（前回51.6%）、「片働き」世帯（「父又は母が就労している世帯」、以下同じ。）は44.3%（前回48.1%）となっている。
また、「共働き」世帯における児童数の構成割合は54.7%、1世帯当たりの平均児童数は1.81人となっている。（表3）

表3 「父母とも同居」している世帯の父母の就労状況別にみた世帯の状況

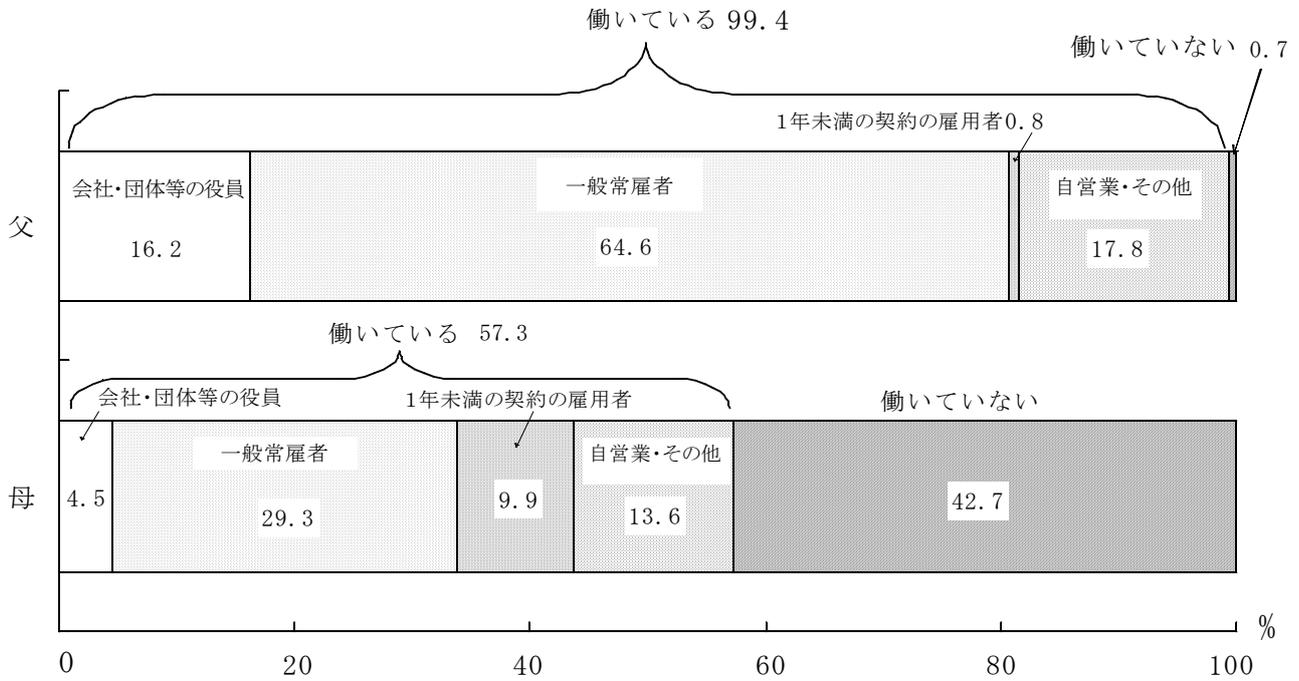
父 母 の 就 労 状 況	平成6年	平成11年	平成16年		
	世帯数の構成割合	世帯数の構成割合	世帯数及び構成割合	児童数及び構成割合	1世帯当たりの平均児童数
総数	(%) 100.0	(%) 100.0	(世帯) 1,213 (100.0%)	(人) 2,178 (100.0%)	(人) 1.80 (1.81)
父母とも就労している（共働き）	49.1	51.6	659 (54.3)	1,191 (54.7)	1.81 (1.80)
父が就労している	} (片働き)	47.7	529 (43.6)	948 (43.5)	1.79 (1.82)
母が就労している					
父母は就労していない	0.2	0.4	8 (0.7)	10 (0.5)	1.25 (1.43)
不詳	0.3	0.3	3 (0.2)	6 (0.3)	2.00 (1.20)
	1.1	—	14 (1.2)	23 (1.1)	—

注) 1. 「就労している（働いている）」とは、「会社・団体等の役員」、「一般常雇者」、「1年未満の契約の雇用者」、「自営業・その他」のこと。
2. 「1世帯当たりの平均児童数」の括弧内の数値は、前回の平成11年の数値である。

(4) 父母の仕事の種類

父母の仕事の種類をみると、父の99.4%、母の57.3%が就労しており、父では「会社・団体等の役員」16.2%、「一般常雇者」64.6%、「1年未満の契約の雇者」0.8%、「自営業・その他」17.8%、「働いていない」0.7%となっており、母では「会社・団体等の役員」4.5%、「一般常雇者」29.3%、「1年未満の契約の雇者」9.9%、「自営業・その他」13.6%、「働いていない」42.7%となっている。(図1)

図1 父母の仕事の種類 (平成16年)



注) 「自営業・その他」とは、個人経営の商店主・工場主・農業主などの事業主や開業医・弁護士・著述家・行商従事者などのこと。

2 その他の状況

(1) 父母の仕事からの帰宅時間の状況

父母の仕事からの帰宅時間の状況をみると、父では「8時前」が17.6%と最も多く、次いで「7時前」16.7%、「決まっていない」15.2%となっており、母では「6時前」が21.3%と最も多く、次いで「7時前」9.7%、「4時前」8.0%となっている。(表4)

表4 父母の仕事からの帰宅時間の状況

		(平成16年)											仕事なし	不詳
総数		仕事あり												
		午後2時前	4時前	6時前	7時前	8時前	9時前	10時前	0時前	0時後	決まっていない			
父	1,241(人) (100.0%)	1,214 (97.8)	3 (0.2)	3 (0.2)	123 (9.9)	207 (16.7)	219 (17.6)	169 (13.6)	161 (13.0)	103 (8.3)	37 (3.0)	189 (15.2)	9 (0.7)	18 (1.5)
母	1,344(人) (100.0%)	756 (56.3)	67 (5.0)	107 (8.0)	286 (21.3)	130 (9.7)	36 (2.7)	13 (1.0)	8 (0.6)	7 (0.5)	6 (0.4)	96 (7.1)	567 (42.2)	21 (1.6)

注) 「総数」からは、子どもと同居していない父、母は除く。

(2) 一週間のうち、家族そろって一緒に食事（朝食及び夕食）をする日数

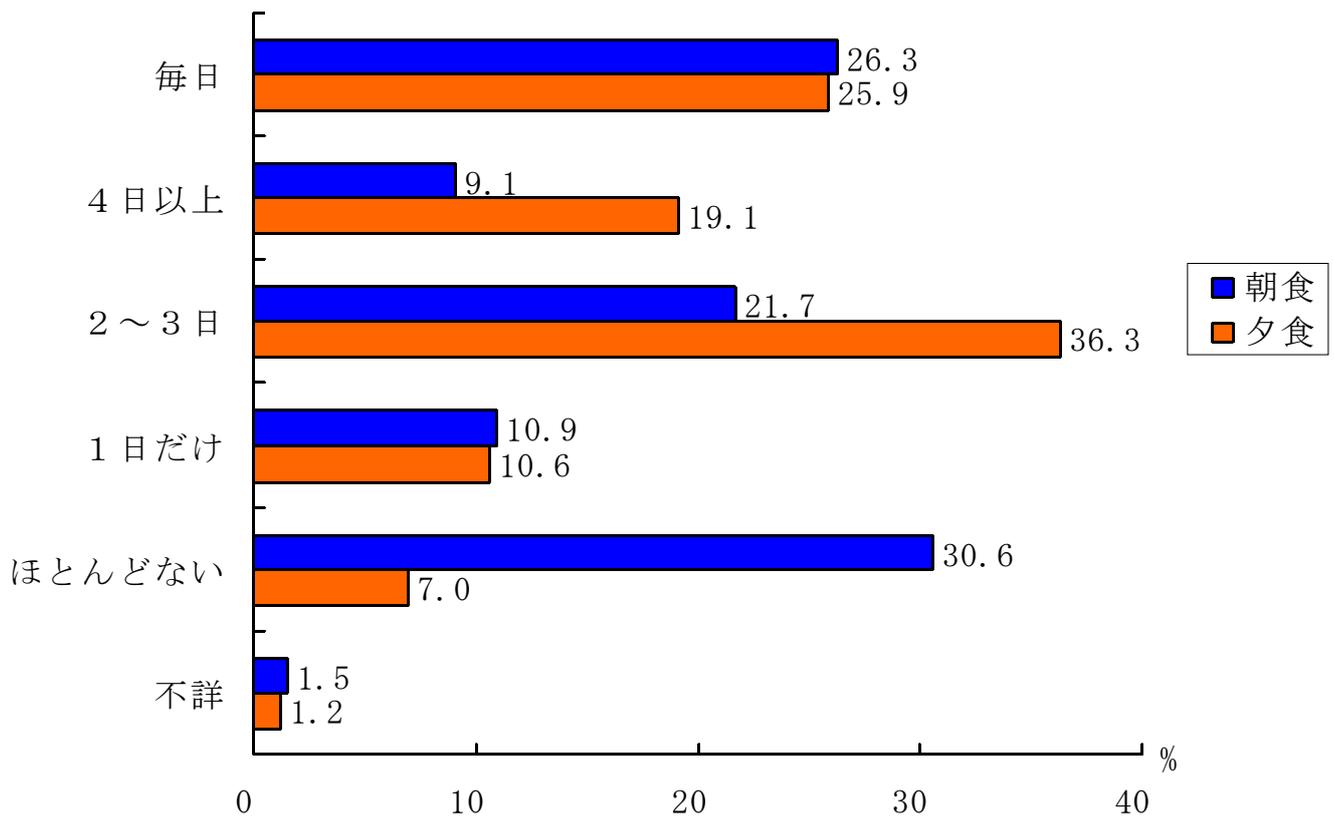
一週間のうち、家族そろって一緒に朝食を食べる日数は、「ほとんどない」が30.6%と最も多く、次いで「毎日」が26.3%、「2～3日」が21.7%となっている。
 また、一週間のうち、家族そろって一緒に夕食を食べる日数は、「2～3日」が36.3%と最も多く、次いで、「毎日」が25.9%、「4日以上」が19.1%となっている。
 なお、朝食と夕食を比較してみると、夕食のほうが、家族そろって一緒に食べる日数の割合が多くなっている（表5及び図2）。

表5 一週間のうち、家族そろって一緒に食事（朝食及び夕食）をする日数

(平成16年)

食事（朝食及び夕食）	総数	毎日	4日以上	2～3日	1日だけ	ほとんどない	不詳
朝食	1,376(世帯) (100.0%)	362 (26.3)	125 (9.1)	298 (21.7)	150 (10.9)	421 (30.6)	21 (1.5)
夕食	1,376(世帯) (100.0%)	356 (25.9)	263 (19.1)	499 (36.3)	146 (10.6)	96 (7.0)	16 (1.2)

図2 一週間のうち、家族そろって一緒に食事（朝食及び夕食）をする日数（平成16年）



(3) 父母の仕事の種類別にみた子どもたちとの会話時間（1週間当たり）

父母の仕事の種類別に子どもたちとの会話時間（1週間当たり）をみると、「就労している」父では「0～4時間」が31.3%と最も多くなっており、「会社・団体等の役員」では31.7%、「一般常雇者」では31.3%、「自営業・その他」では31.4%となっている。
 「就労している」母では、「5～9時間」が18.5%と最も多くなっており、「就労していない」母では、「70時間以上」が16.9%と最も多くなっている。（表6）

表6 父母の仕事の種類別にみた子どもたちとの会話時間（1週間当たり）

（平成16年）

会話時間	総数	就労している	就労していない				
			会社・団体等の役員	一般常雇者	1年未満の契約の雇用者	自営業、その他	
父 総数	1,223(人) (100.0%)	1,214(人) (100.0%)	199(人) (100.0%)	785(人) (100.0%)	10(人) (100.0%)	220(人) (100.0%)	9(人) (100.0%)
0～4時間	382 (31.2)	380 (31.3)	63 (31.7)	246 (31.3)	2 (20.0)	69 (31.4)	2 (22.2)
5～9時間	224 (18.3)	220 (18.1)	36 (18.1)	130 (16.6)	1 (10.0)	53 (24.1)	4 (44.4)
10～14時間	187 (15.3)	187 (15.4)	38 (19.1)	119 (15.2)	1 (10.0)	29 (13.2)	—
15～19時間	87 (7.1)	87 (7.2)	9 (4.5)	61 (7.8)	—	17 (7.7)	—
20～29時間	168 (13.7)	166 (13.7)	22 (11.1)	112 (14.3)	2 (20.0)	30 (13.6)	2 (22.2)
30～39時間	77 (6.3)	77 (6.3)	14 (7.0)	55 (7.0)	—	8 (3.6)	—
40～49時間	24 (2.0)	24 (2.0)	3 (1.5)	15 (1.9)	—	6 (2.7)	—
50～59時間	5 (0.4)	5 (0.4)	1 (0.5)	4 (0.5)	—	—	—
60～69時間	7 (0.6)	7 (0.6)	—	6 (0.8)	—	1 (0.5)	—
70時間以上	4 (0.3)	4 (0.3)	—	3 (0.4)	—	1 (0.5)	—
不詳	58 (4.7)	57 (4.7)	13 (6.5)	34 (4.3)	4 (40.0)	6 (2.7)	1 (11.1)
母 総数	1,323(人) (100.0%)	756(人) (100.0%)	60(人) (100.0%)	389(人) (100.0%)	131(人) (100.0%)	176(人) (100.0%)	567(人) (100.0%)
0～4時間	143 (10.8)	106 (14.0)	9 (15.0)	56 (14.4)	19 (14.5)	22 (12.5)	37 (6.5)
5～9時間	190 (14.4)	140 (18.5)	6 (10.0)	75 (19.3)	25 (19.1)	34 (19.3)	50 (8.8)
10～14時間	185 (14.0)	120 (15.9)	8 (13.3)	59 (15.2)	23 (17.6)	30 (17.0)	65 (11.5)
15～19時間	67 (5.1)	42 (5.6)	6 (10.0)	16 (4.1)	5 (3.8)	15 (8.5)	25 (4.4)
20～29時間	216 (16.3)	135 (17.9)	14 (23.3)	74 (19.0)	20 (15.3)	27 (15.3)	81 (14.3)
30～39時間	167 (12.6)	101 (13.4)	9 (15.0)	46 (11.8)	20 (15.3)	26 (14.8)	66 (11.6)
40～49時間	77 (5.8)	36 (4.8)	1 (1.7)	21 (5.4)	6 (4.6)	8 (4.5)	41 (7.2)
50～59時間	83 (6.3)	30 (4.0)	1 (1.7)	16 (4.1)	7 (5.3)	6 (3.4)	53 (9.3)
60～69時間	30 (2.3)	13 (1.7)	1 (1.7)	9 (2.3)	2 (1.5)	1 (0.6)	17 (3.0)
70時間以上	111 (8.4)	15 (2.0)	2 (3.3)	8 (2.1)	—	5 (2.8)	96 (16.9)
不詳	54 (4.1)	18 (2.4)	3 (5.0)	9 (2.3)	4 (3.1)	2 (1.1)	36 (6.3)

注) 1. 「総数」からは、「父または母のどちらかが別居している」場合及び父母とも就労状況が「不詳」のものを除く。
 2. 子どもが複数いる場合は、全ての子どもたちとの会話時間の合計である。

(4) 子どもたちとよく一緒にすること

子どもたちとよく一緒にすることをみると、「デパートやスーパーなどへ買い物に行く」が86.4%と最も多く、「テレビを見て、話し合ったりする」が75.7%、「外へ出て、食事をする」が62.7%となっている。

男女別にみると、男子では「一緒にスポーツクラブに入るなど計画的にスポーツと一緒にする」13.1%（女子8.9%）、「散歩やボール遊びなどをする」51.4%（女子47.4%）、「旅行やハイキング、魚つりなどに出かける」37.3%（女子34.6%）が、女子に比べて多くっており、女子では「デパートやスーパーなどへ買い物に行く」88.6%（男子84.3%）、「ケーキ作りや料理をする」44.5%（男子35.1%）などが、男子に比べて多くなっている。

学年別にみると、各学年とも「デパートやスーパーなどへ買い物に行く」の割合が多くなっている。（表7）

表7 子どもたちとよく一緒にすることの構成割合（複数回答）

（単位：％）

（平成16年）

一緒にすること	総数	男	女	未就学	小学校 1～3 年生	小学校 4～6 年生	中学生	高校生等	就職・ その他
総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
外へ出て、食事をする	62.7	61.2	64.3	65.0	67.7	61.9	61.5	54.3	37.5
一緒にスポーツクラブに入るなど計画的にスポーツと一緒にする	11.1	13.1	8.9	7.5	15.5	17.3	10.9	6.0	—
散歩やボール遊びなどをする	49.5	51.4	47.4	80.6	56.0	44.4	23.8	14.8	—
旅行やハイキング、魚つりなどに出かける	36.0	37.3	34.6	33.6	46.8	44.2	32.0	22.7	—
映画や観劇、音楽会へ行く	30.7	29.8	31.6	20.3	38.2	40.4	32.6	29.3	—
デパートやスーパーなどへ買い物に行く	86.4	84.3	88.6	93.9	89.5	88.6	81.2	71.0	37.5
室内でゲームやごっこ遊びをする	50.4	49.9	50.9	81.0	62.1	45.8	24.3	9.5	25.0
音楽を聞いたり、演奏や合唱・カラオケをする	31.0	29.1	33.0	37.5	30.9	31.3	27.2	21.8	12.5
ケーキ作りや料理をする	39.6	35.1	44.5	36.4	47.1	47.7	40.4	26.2	—
絵を描いたり、物をつくったり 編み物などをする	32.1	30.0	34.4	54.5	36.8	27.1	14.0	8.5	12.5
お話を聞かせたり、本を讀んで その感想を話し合ったりする	42.0	40.4	43.8	74.5	51.8	29.9	16.7	8.8	—
勉強をみてやる	53.4	52.7	54.1	42.4	82.7	68.9	48.3	27.4	—
テレビを見て、話し合ったりする	75.7	74.4	77.0	64.8	79.9	80.6	83.7	77.0	62.5
家族会議を開いて、話し合う	13.6	13.9	13.2	9.8	16.4	19.4	13.6	11.4	—
家業の手伝いをさせ、一緒に仕事をする	42.3	41.7	43.0	36.0	52.0	50.2	42.7	32.5	50.0
その他	4.3	4.1	4.5	6.1	2.8	3.5	3.3	4.4	—
特に一緒にすることはない	5.2	5.8	4.6	1.2	3.0	4.0	7.9	14.5	25.0
不詳	0.8	1.1	0.6	0.3	0.9	1.6	0.6	1.3	—

注）「高校生等」とは「高校生」、「各種学校・専修学校・職業訓練校の生徒」の合計である。

(5) 子育てについての不安や悩み

子育てについての不安や悩みの状況をみると、「子どもの勉強や進学に関すること」が54.8%と最も多く、「子どものしつけに関すること」52.3%、「子どもの性格や癖に関すること」40.5%となっている。

学年別にみると、未就学と小学校1～3年生を比較した場合、不安や悩みを持つ割合が高くなっているが、小学校1～3年生以降では、学年が高くなるにつれて、割合が減少する傾向にある。(表8)

表8 子育てについての不安や悩みの種類の構成割合(複数回答)

(単位: %)

(平成16年)

不安や悩みの種類	総数	男	女	未就学	小学校 1～3 年生	小学校 4～6 年生	中学生	高校生等	就職・ その他
総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
子どものしつけに関すること	52.3	54.2	50.3	59.5	58.8	53.0	46.4	34.7	50.0
子どもの健康に関すること	30.9	32.4	29.3	35.4	29.7	32.7	27.6	24.9	25.0
子どもの勉強や進学に関すること	54.8	55.2	54.5	30.8	57.1	61.4	74.5	69.4	50.0
子どもの就職に関すること	16.4	17.4	15.5	5.7	11.7	15.2	25.1	35.6	50.0
子どもの性格や癖に関すること	40.5	41.0	40.0	49.1	51.1	38.3	32.8	21.1	25.0
子どもの暴力や非行に関すること	5.1	6.0	4.1	4.2	5.9	6.5	5.9	2.8	12.5
子どものいじめに関すること	11.2	11.4	11.0	9.6	16.6	14.3	9.6	6.3	—
子どもの友人に関すること	17.9	17.1	18.8	15.6	24.4	22.2	17.2	10.7	—
子どもの性に関すること	7.4	7.8	7.1	3.5	7.5	8.9	10.9	9.5	—
子どもが保育園や幼稚園、学校に行くのを嫌がること	6.3	6.0	6.5	6.6	4.9	6.3	7.3	5.4	12.5
子どもの育て方について、自信が持てないこと	21.4	22.5	20.2	24.8	22.7	20.3	21.3	13.2	12.5
子どもの事に関して、家族が協力してくれないこと	8.3	9.0	7.5	8.3	9.8	8.4	6.7	7.9	25.0
家の近所の環境がよくないこと	6.3	6.2	6.4	6.9	6.1	7.0	5.9	4.7	—
その他	0.9	1.1	0.7	1.9	0.5	0.5	0.4	—	12.5
特に不安や悩みはない	16.4	15.5	17.3	17.1	14.5	16.4	14.4	19.9	25.0

注) 「高校生等」とは「高校」、「各種学校・専修学校・職業訓練校」の合計である。

(6) 子育てについての不安や悩みの相談相手

不安や悩みを持っていると回答した者に、不安や悩みの種類ごとにその相談相手について尋ねた。

不安や悩みの種類として多く見られた「子どものしつけに関すること」、「子どもの勉強や進学に関すること」、「子どもの性格や癖に関すること」では、「家族の者に相談する」、「信頼できる身近な人に相談する」、「インターネットの子育てサイトなどに相談する」が多くなっている。

なお、「子どもの事に関して、家族が協力してくれないこと」を除いては、「家族の者に相談する」が、最も多くなっている。(表9)

表9 子育てについての不安や悩みの種類別の相談相手の構成割合(複数回答)

(単位：%)

(平成16年)

不安や悩みの種類	総数	専門家や公的機関に相談する (電話も含む)	保育園や幼稚園、学校の先生などに相談する	信頼できる身近な人に相談する	インターネットの子育てサイトなどに相談する	家族の者に相談する	子どもと話し合う	自分で考えて解決する	その他	相談相手はいない	不詳
子どものしつけに関すること	100.0	4.7	17.2	49.6	1.6	70.6	23.9	17.5	1.9	3.2	4.7
子どもの健康に関すること	100.0	37.1	6.5	35.7	3.4	58.6	13.7	13.3	3.9	2.9	5.5
子どもの勉強や進学に関すること	100.0	5.8	30.7	34.0	1.0	61.7	46.1	9.7	3.2	2.5	5.6
子どもの就職に関すること	100.0	3.6	16.5	25.0	1.3	57.1	46.9	8.9	5.4	5.4	8.0
子どもの性格や癖に関すること	100.0	5.4	20.0	42.8	0.8	68.7	31.3	10.9	1.8	3.9	4.3
子どもの暴力や非行に関すること	100.0	9.8	19.7	34.4	3.3	52.5	26.2	8.2	1.6	9.8	6.6
子どものいじめに関すること	100.0	8.7	40.6	34.8	1.4	52.9	34.8	7.2	2.9	5.1	6.5
子どもの友人に関すること	100.0	4.0	27.1	45.3	1.3	54.2	42.7	8.4	2.2	4.0	4.9
子どもの性に関すること	100.0	8.0	9.0	35.0	5.0	54.0	32.0	14.0	3.0	7.0	6.0
子どもが保育園や幼稚園、学校に行くのを嫌がること	100.0	19.8	55.6	35.8	1.2	56.8	33.3	7.4	3.7	2.5	1.2
子どもの育て方について、自信が持てないこと	100.0	7.9	12.1	54.3	1.8	60.7	7.1	17.9	3.2	8.9	4.3
子どもの事に関して、家族が協力してくれないこと	100.0	6.6	2.8	44.3	2.8	23.6	4.7	24.5	8.5	18.9	3.8
家の近所の環境がよくないこと	100.0	8.8	7.7	31.9	2.2	54.9	20.9	16.5	9.9	16.5	6.6
その他	100.0	18.8	12.5	37.5	—	37.5	12.5	18.8	6.3	18.8	6.3

(7) 公的機関等の利用状況

公的機関等の利用状況をみると、「利用したことがある」世帯は53.1%（前回60.7%）、「利用したことはない」世帯は46.9%（前回39.3%）となっている。

さらに、利用機関等を種類別にみると、「母子健康センターまたは市町村保健センター」が36.5%（前回39.6%）と最も多く、次いで「保健所」が35.2%（前回44.2%）、「保育所」の5.2%（前回5.2%）、「児童相談所」の4.0%（前回3.5%）、「福祉事務所」の3.2%（前回3.4%）の順になっている。（表10）

表10 公的機関等の利用状況（複数回答）

（平成16年）

父母の同居別居	総数	利用したことがある	児童相談所	福祉事務所	児童委員	保健所	母子健康センター または市町村保健センター	保育所	その他	利用したことはない
平成6年	100.0(%)	53.9	2.5	2.1	0.3	73.7		3.3	1.5	46.1
平成11年	100.0(%)	60.7	3.5	3.4	0.1	44.2	39.6	5.2	2.0	39.3
平成16年 総数	(世帯) 1,309 (100.0%)	(695) (53.1)	(53) (4.0)	(42) (3.2)	(4) (0.3)	(461) (35.2)	(478) (36.5)	(68) (5.2)	(39) (3.0)	(614) (46.9)
父母とも同居	1,159 (100.0%)	(625) (53.9)	(36) (3.1)	(25) (2.2)	(2) (0.2)	(415) (35.8)	(442) (38.1)	(59) (5.1)	(32) (2.8)	(534) (46.1)
父のみ同居	26 (100.0%)	(9) (34.6)	(3) (11.5)	(1) (3.8)	—	(5) (19.2)	(3) (11.5)	(1) (3.8)	(1) (3.8)	(17) (65.4)
母のみ同居	122 (100.0%)	(61) (50.0)	(14) (11.5)	(16) (13.1)	(2) (1.6)	(41) (33.6)	(33) (27.0)	(8) (6.6)	(6) (4.9)	(61) (50.0)
その他	2 (100.0%)	—	—	—	—	—	—	—	—	(2) (100.0)

注) 1. 「総数」からは、公的機関等の利用状況が「不詳」の世帯を除く。
2. 平成6年については、「保健所」及び「母子健康センター又は市町村保健センター」を並列し計上していた。

(8) 子育てに関する事業等の利用状況

子育てに関する事業等の利用状況をみると、「地域にある」ものは、「放課後児童クラブ」が53.1%で最も多く、次いで「子ども会育成会」35.4%、「地域子育て支援センター」29.5%となっている。

「地域にない」ものは、「子育てNPO」14.3%が最も多く、次いで「育児支援家庭訪問事業」14.1%となっている。

「利用したことがある」もので最も多いのは、「子ども会育成会」で23.0%、次いで「つどいの広場」10.5%となっている。

「利用したことはない」もので最も多いのは、「放課後児童クラブ」で41.8%、次いで「地域子育て支援センター」で20.6%となっている。（表11）。

表11 子育てに関する事業等の利用状況

（平成16年）

子育てに関する事業	総数	地域にある	利用したことがある	利用したことはない	不詳	地域にない	不明	不詳
つどいの広場	1,376(世帯) (100.0%)	(296) (21.5)	(144) (10.5)	(142) (10.3)	(10) (0.7)	(193) (14.0)	(806) (58.6)	(81) (5.9)
育児支援家庭訪問事業	1,376(世帯) (100.0%)	(177) (12.9)	(48) (3.5)	(123) (8.9)	(6) (0.4)	(194) (14.1)	(925) (67.2)	(80) (5.8)
乳幼児健康支援一時預かり事業	1,376(世帯) (100.0%)	(217) (15.8)	(20) (1.5)	(189) (13.7)	(8) (0.6)	(193) (14.0)	(883) (64.2)	(83) (6.0)
地域子育て支援センター	1,376(世帯) (100.0%)	(406) (29.5)	(110) (8.0)	(284) (20.6)	(12) (0.9)	(171) (12.4)	(718) (52.2)	(81) (5.9)
放課後児童クラブ	1,376(世帯) (100.0%)	(730) (53.1)	(131) (9.5)	(575) (41.8)	(24) (1.7)	(152) (11.0)	(419) (30.5)	(75) (5.5)
ファミリーサポートセンター	1,376(世帯) (100.0%)	(164) (11.9)	(14) (1.0)	(144) (10.5)	(6) (0.4)	(190) (13.8)	(943) (68.5)	(79) (5.7)
子育てNPO	1,376(世帯) (100.0%)	(74) (5.4)	(13) (0.9)	(58) (4.2)	(3) (0.2)	(197) (14.3)	(1023) (74.3)	(82) (6.0)
母親クラブ	1,376(世帯) (100.0%)	(226) (16.4)	(59) (4.3)	(153) (11.1)	(14) (1.0)	(173) (12.6)	(897) (65.2)	(80) (5.8)
子ども会育成会	1,376(世帯) (100.0%)	(487) (35.4)	(316) (23.0)	(148) (10.8)	(23) (1.7)	(125) (9.1)	(690) (50.1)	(74) (5.4)

注) 「不明」とは、子育てに関する事業等の存在がわからない、地域に「ある」か「ない」かがわからない世帯の数値。

(9) 「父母とも同居」している世帯の子どもたちへのしつけの状況

「父母とも同居」している世帯の子どもたちへのしつけの状況を見ると、「やや厳しくしている」が40.9%と最も多く、「やや甘やかしている」25.2%、「どちらともいえない」24.3%となっている。父母別にみると、父では「やや厳しくしている」が35.4%、「やや甘やかしている」が28.1%、「どちらともいえない」が25.6%、母では「やや厳しくしている」が46.1%、「どちらともいえない」が23.1%、「やや甘やかしている」が22.5%となっている。(表12、図3-1及び図3-2)

表12 「父母とも同居」している世帯の子どもたちへのしつけの状況の構成割合

しつけの状況	(平成16年)		
	総数	父	母
総数	100.0	100.0	100.0
とても厳しくしている	5.5	5.6	5.4
やや厳しくしている	40.9	35.4	46.1
やや甘やかしている	25.2	28.1	22.5
とても甘やかしている	2.9	4.1	1.7
どちらともいえない	24.3	25.6	23.1
不詳	1.2	1.2	1.2

図3 「父母とも同居」している世帯の子どもたちへのしつけの状況 (平成16年)

図3-1 総数

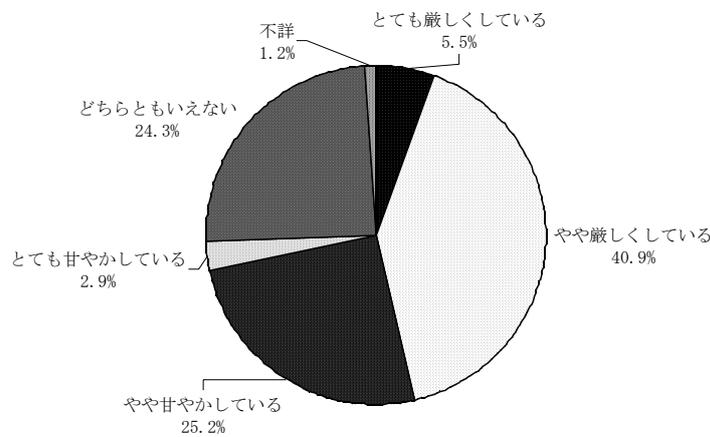
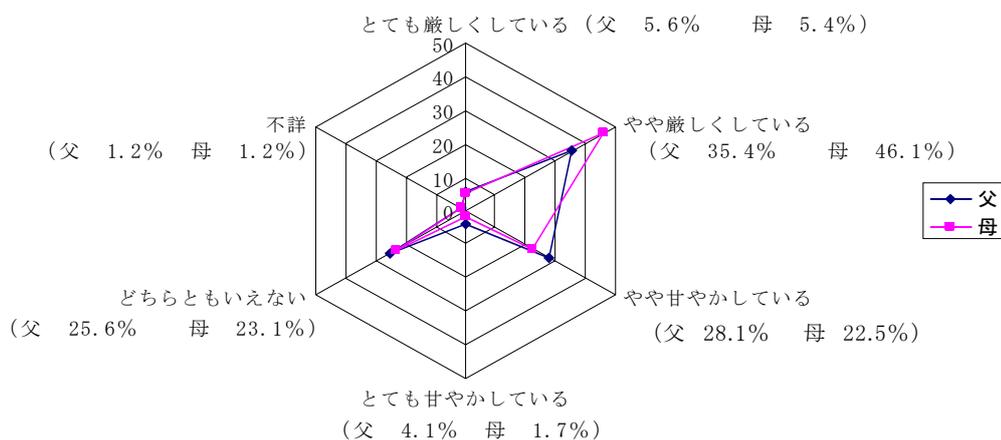


図3-2 父母



(10) 1か月間にかかる養育費の状況(平成16年11月の1か月)

1か月間にかかる養育費の状況についてみると(平成16年11月の1か月)、「2万円未満」が49.5%(前回44.9%)と最も多く、以下「2万円～4万円未満」30.7%(前回36.7%)、「4万円～6万円未満」11.8%(前回11.8%)となっている。

学年別にみると「未就学」55.1%、「小学校1～3年」68.6%、「小学校4～6年」62.2%、「中学生」37.5%で「2万円未満」が多く、「高校生等」では「2万円～4万円未満」が39.1%と最も多くなっている。(表13及び図4)

表13 1か月間にかかる養育費の状況の構成割合

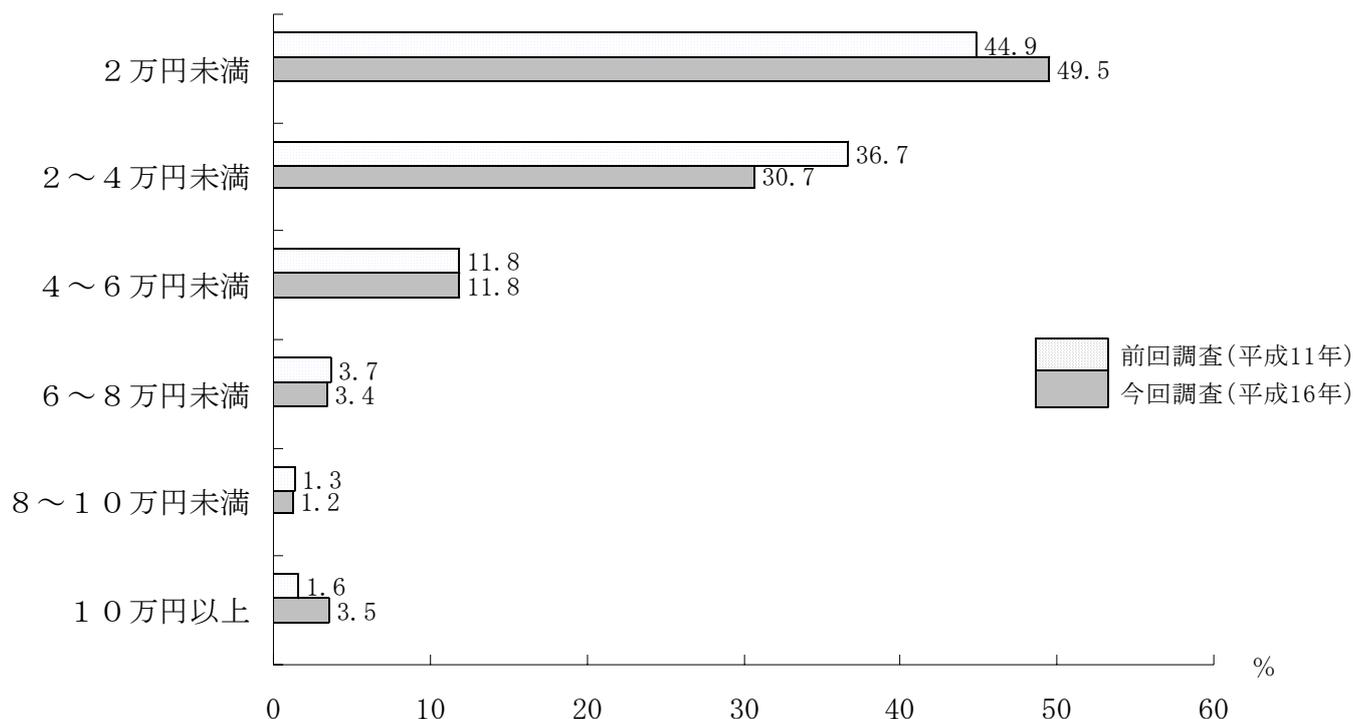
(単位:%)

(平成16年11月の1か月)

1か月間 にかかる 養育費	平成 11年	性・学年								
		総 数	男	女	未 就 学	小 学 校 1～3年生	小 学 校 4～6年生	中 学 校	高 校 生 等	就 職・ その他
総 数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
2万円未満	44.9	49.5	52.5	46.2	55.1	68.6	62.2	37.5	11.4	83.3
2万円～ 4万円未満	36.7	30.7	28.9	32.7	30.1	24.0	26.7	36.1	39.1	16.7
4万円～ 6万円未満	11.8	11.8	11.6	12.0	12.1	3.8	4.7	15.5	25.9	—
6万円～ 8万円未満	3.7	3.4	2.8	4.0	1.4	1.3	1.2	4.7	11.4	—
8万円～ 10万円 未満	1.3	1.2	1.0	1.4	0.3	0.5	2.0	1.1	3.0	—
10万円 以上	1.6	3.5	3.3	3.7	0.9	1.8	3.2	5.1	9.1	—

注) 1. 「高校生等」とは「高校生」、「各種学校・専修学校・職業訓練校の生徒」の合計である。
2. 養育費とは教育費、保育料、医療費、小遣いの合計である。それぞれの状況は、P25「参考表1」参照。

図4 1か月にかかる養育費の状況の構成割合



II 18歳未満の子どもたちの状況

18歳未満の子どもたちの状況については、小学校5年生から18歳未満までの児童を客体としており、児童本人に対して回答を得た結果である。

ただし、1. 未就学児童の状況、2. 終業後のクラブ活動・塾等の状況については、保護者に回答を得た結果となっている。

1 未就学児童の状況

未就学児童の状況を見ると、「その他」が42.4%（前回47.8%）と最も多く、次いで「保育所」に通っている児童が30.7%（前回26.2%）、「幼稚園」に通っている児童が26.8%（前回25.9%）となっている。

また、「その他」を年齢各歳別にみると、「0歳」で90.6%、「1歳」で76.8%、「2歳」で78.3%、「3歳」で55.7%、「4歳」で12.9%、「5歳」で3.5%となっており、「0～3歳」で「その他」が多くなっており、「その他」の中では、「自宅・知り合いの家等」が、41.0%となっている。（表14）

表14 未就学児童の状況の構成割合

（単位：％）

年齢各歳	総 数	保 育 所	幼 稚 園	そ の 他	その他の 保育施設	
					その他の 保育施設	自宅・知り 合いの家等
平成11年	100.0	26.2	25.9	47.8	2.2	45.6
平成16年						
総 数	100.0	30.7	26.8	42.4	1.5	41.0
0 歳	100.0	9.4	・	90.6	—	90.6
1 歳	100.0	23.2	・	76.8	1.8	75.0
2 歳	100.0	21.7	・	78.3	1.9	76.4
3 歳	100.0	34.8	9.6	55.7	2.6	53.0
4 歳	100.0	45.7	41.4	12.9	1.7	11.2
5 歳	100.0	35.5	61.0	3.5	1.4	2.1
6 歳	100.0	35.0	63.8	1.3	—	1.3

注) 1. 「その他の保育施設」とは、事業所内保育施設、認可外保育施設などのこと。

2. 「自宅・知り合いの家等」とは、親、ベビーシッター、親類、知り合い等により、保育が行われている場合をいう。

2 終業後のクラブ活動・塾等の状況

終業後に「クラブ活動」を「している」構成割合を学年別にみると、「小学校1～3年生」では21.7%、「小学校4～6年生」では48.8%、「中学校」69.4%、「高校等」60.0%となっている。

また、終業後に「塾等」へ「行っている」構成割合を同様にみると、「小学校1～3年生」では44.9%、「小学校4～6年生」48.7%、「中学生」56.7%、「高校生等」23.7%となっている。（表15）

表15 終業後のクラブ活動・塾等の状況の構成割合

（単位：％）

学 年	クラブ 活 動	している		塾 等	行っ て い ない	
		している	して いない		行っ て い ない	行っ て い ない
平成11年	100.0	44.1	55.9	100.0	48.9	51.1
平成16年						
総 数	100.0	50.1	49.9	100.0	45.4	54.6
小学校1～3年生	100.0	21.7	78.3	100.0	44.9	55.1
小学校4～6年生	100.0	48.8	51.2	100.0	48.7	51.3
中 学 生	100.0	69.4	30.6	100.0	56.7	43.3
高 校 生 等	100.0	60.0	40.0	100.0	23.7	76.3

注) 1. 「クラブ活動」には、地域のスポーツクラブなどを含む。

2. 「塾等」とは、塾のほか、スポーツ以外の習いごと（英会話、ピアノ等）を含む。

3. 「高校生等」とは「高校生」、「各種学校・専修学校・職業訓練校の生徒」の合計である。

3 帰宅時間の状況

帰宅時間の状況を見ると、「午後6時前」43.1%が最も多く、「午後4時前」17.2%、「午後7時前」15.4%となっている。

学年別にみると、「小学校5～6年生」では「午後6時前」と「午後4時前」の合計が8割以上となっており、中学生では「午後6時前」が55.4%、「午後7時前」が19.0%となっている。

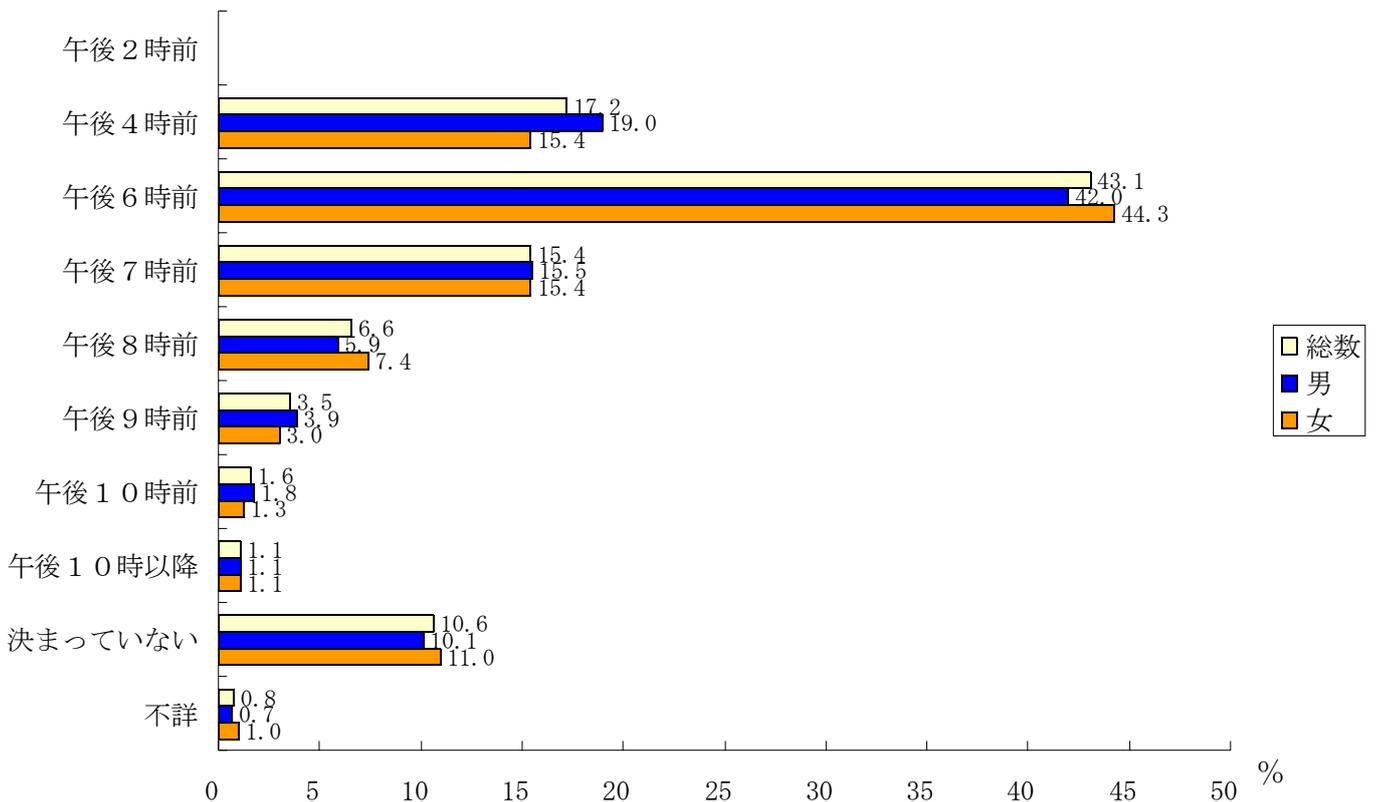
また、「決まっていない」が、「中学生」で10.2%、「高校生等」で12.5%となっている。（表16及び図5）

表16 帰宅時間の状況の構成割合

(単位：%)		(平成16年)						
帰 宅 時 間	総 数	男	女	小 学 校 5～6年生	中学生	高校生等	就職・ その他	
総 数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
午 後 2 時 前	—	—	—	—	—	—	—	
午 後 4 時 前	17.2	19.0	15.4	43.2	10.0	5.3	—	
午 後 6 時 前	43.1	42.0	44.3	44.2	55.4	23.7	—	
午 後 7 時 前	15.4	15.5	15.4	2.9	19.0	21.1	28.6	
午 後 8 時 前	6.6	5.9	7.4	0.7	2.9	18.1	—	
午 後 9 時 前	3.5	3.9	3.0	0.4	0.8	10.5	—	
午 後 1 0 時 前	1.6	1.8	1.3	—	0.8	3.9	14.3	
午 後 1 0 時 以 降	1.1	1.1	1.1	—	0.2	3.6	—	
決まっていない	10.6	10.1	11.0	7.9	10.2	12.5	57.1	
不 詳	0.8	0.7	1.0	0.7	0.6	1.3	—	

注) 「高校生等」とは「高校生」、「各種学校・専修学校・職業訓練校の生徒」の合計である。

図5 帰宅時間の状況（平成16年）



4 遊びの状況

(1) 普段、一緒によく遊ぶ友達の種類

普段、一緒によく遊ぶ友達の種類の状況をみると、「同じクラスの子」が74.3%と最も多く、次いで「違うクラスの子」51.8%、「クラブや部活で一緒の子」40.3%となっている。

学年別にみると、各学年とも「同じクラスの子」の割合が最も多く、「小学校5～6年生」では83.8%、「中学生」74.8%、「高校生等」66.4%となっている。

また、「中学生」では「同じクラスの子」に次いで、「違うクラスの子」60.8%、「クラブや部活で一緒の子」が52.7%と多くなっており、「高校生等」では「同じクラスの子」に次いで、「前の学校や幼稚園で一緒」が42.8%となっている。(表17)

表17 普段、一緒によく遊ぶ友達の種類の構成割合(複数回答)

(単位：%)

(平成16年)

友 達 の 種 類	性・学年						
	総 数	男	女	小 学 校 5～6年生	中学生	高校生等	就職・ その他
総 数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
同じクラスの子	74.3	72.2	76.4	83.8	74.8	66.4	—
違うクラスの子	51.8	50.3	53.4	47.8	60.8	42.4	—
違う学年の子	15.0	18.0	11.8	27.0	12.7	7.9	—
家の近所の子	16.2	18.4	13.9	28.1	11.3	13.2	14.3
塾やけいこ事で一緒の子	7.4	7.0	7.8	9.4	7.9	4.9	—
クラブや部活で一緒の子	40.3	41.3	39.4	22.3	52.7	38.2	—
前の学校や幼稚園で一緒	21.6	19.3	24.0	11.2	14.2	42.8	28.6
その他	3.7	3.5	4.0	2.2	3.5	4.9	28.6
特に決まっていない	5.9	6.6	5.1	3.6	5.4	8.6	14.3
自分一人で遊ぶ	1.7	1.5	1.9	2.2	1.5	1.3	14.3
遊ばない(遊べない)	3.9	2.9	4.9	2.9	4.6	3.9	—
不 詳	0.7	0.7	0.6	0.4	0.4	1.3	—

注) 「高校生等」とは「高校生」、「各種学校・専修学校・職業訓練校の生徒」の合計である。

(2) 一緒によく遊ぶ友達の人数

一緒によく遊ぶ友達の人数をみると、「4～5人」が33.8%と最も多くなっており、学年別にみると、各学年とも「4～5人」が最も多く、「小学校5～6年生」では35.2%、「中学生」34.1%、「高校生等」31.6%となっている。(表18)

表18 一緒によく遊ぶ友達の人数の構成割合

(単位：%)

(平成16年)

よく遊ぶ友達 の人数	性・学年						
	総 数	男	女	小 学 校 5～6年生	中学生	高校生等	就職・ その他
総 数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1 人	2.1	1.5	2.7	1.5	2.7	1.7	—
2 ～ 3 人	26.9	23.3	30.6	30.7	24.6	27.1	16.7
4 ～ 5 人	33.8	33.7	33.9	35.2	34.1	31.6	50.0
6 人 以 上	29.1	32.9	25.1	27.7	29.5	29.9	33.3
わからない	6.9	6.9	6.9	4.2	8.0	8.0	—
不 詳	1.2	1.5	0.8	0.8	1.1	1.7	—

注) 「高校生等」とは「高校生」、「各種学校・専修学校・職業訓練校の生徒」の合計である。

(3) 普段の遊び場

普段の遊び場についての状況を見ると、「友達の家」が65.2%と最も多く、次いで「自宅」の52.5%、「公園」28.6%、「商店街やデパート」27.0%、「本屋やCD・レコード店」24.7%、「学校の校庭や体育館」及び「ゲームセンター」20.5%の順になっており、学年別にみると、「小学校5～6年生」では「友達の家」77.7%が最も多く、次いで「自宅」65.5%、「公園」51.1%、「中学生」では「友達の家」64.4%が最も多く、次いで「自宅」50.0%、「商店街やデパート」31.3%、「高校生等」では「友達の家」55.3%が最も多く、次いで「自宅」44.4%、「商店街やデパート」39.5%となっている。(表19)

表19 普段の遊び場の構成割合(複数回答)

(単位：%)

(平成16年)

遊 び 場	性・学年						
	総 数	男	女	小 学 校 5～6年生	中学生	高校生等	就職・ その他
総 数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
自 宅	52.5	55.2	49.6	65.5	50.0	44.4	57.1
友達の家	65.2	68.5	61.8	77.7	64.4	55.3	57.1
公 園	28.6	30.9	26.2	51.1	27.5	10.5	—
学校の校庭や体育館	20.5	22.8	18.1	36.7	15.2	14.5	—
児童館や児童センター	4.3	5.0	3.6	11.2	2.5	1.0	—
図書館や博物館	4.6	3.5	5.7	4.0	6.3	2.3	14.3
商店街やデパート	27.0	13.6	40.9	6.8	31.3	39.5	—
本屋やCD・レコード店	24.7	22.1	27.4	6.5	27.3	37.2	28.6
ゲームセンター	20.5	13.4	27.8	5.0	25.8	26.0	28.6
繁華街	6.4	4.2	8.6	1.1	4.4	14.5	—
ファミリーレストラン等	12.4	6.1	19.0	1.1	9.6	27.3	14.3
車のあまり通らない道路	4.3	4.6	4.0	8.6	3.8	1.3	—
空き地	5.1	7.9	2.1	9.0	5.4	1.0	—
神社やお寺	2.4	2.6	2.3	5.0	1.9	1.0	—
山や川やまたは海岸等	4.0	6.1	1.9	5.0	3.5	3.9	—
不 詳	4.4	5.5	3.2	2.2	5.6	4.6	—

注) 「高校生等」とは「高校生」、「各種学校・専修学校・職業訓練校の生徒」の合計である。

5 1日にどのくらいテレビやビデオを見たり、テレビゲームやパソコンで遊んだり、携帯電話(PHSを含む)を使用しているかの状況

(1) 1日のうち、テレビやビデオを見たりする時間

1日のうち、テレビやビデオを見たりする時間をみると、「2時間以上で3時間より少ない」29.7%が最も多く、次いで「3時間以上」29.2%、「1時間以上で2時間より少ない」27.7%となっている。「ほとんど見ない」と「1時間より少ない」の合計が10.8%となっており、9割近くの児童が1時間以上、テレビやビデオを見たりしている。(表20)

表20 1日のうち、テレビやビデオを見たりする時間の構成割合

(単位：%)

(平成16年)

時 間	性・学年						
	総 数	男	女	小 学 校 5～6年生	中学生	高校生等	就職・ その他
総 数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
ほとんど見ない	2.6	2.4	2.9	2.5	1.9	3.9	—
1時間より少ない	8.2	7.6	8.9	7.2	5.8	13.2	—
1時間以上で2時間より少ない	27.7	29.1	26.2	29.1	26.7	28.3	14.3
2時間以上で3時間より少ない	29.7	29.8	29.5	30.6	29.8	28.3	42.9
3時間以上	29.2	27.4	31.0	28.4	32.3	24.7	42.9
不 詳	2.6	3.7	1.5	2.2	3.5	1.6	—

注) 「高校生等」とは「高校生」、「各種学校・専修学校・職業訓練校の生徒」の合計である。

(2) 1日のうち、テレビゲームやパソコンで遊ぶ時間

1日のうち、テレビゲームやパソコンで遊ぶ時間をみると、「ほとんど遊ばない」31.5%が最も多く、次いで「1時間より少ない」22.2%、「1時間以上で2時間より少ない」22.1%となっている。
男女別にみると、女子では「ほとんど遊ばない」が45.1%（男子18.4%）と男子に比べて多くなっている。（表21）

表21 1日のうち、テレビゲームやパソコンで遊ぶ時間の構成割合

(単位：%)

(平成16年)

時 間	性・学年						
	総 数	男	女	小 学 校 5～6年生	中学生	高校生等	就職・ その他
総 数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
ほとんど遊ばない	31.5	18.4	45.1	25.2	31.0	38.2	28.6
1時間より少ない	22.2	23.2	21.1	31.3	19.0	19.1	14.3
1時間以上で2時間 より少ない	22.1	28.7	15.2	24.8	22.5	19.1	14.3
2時間以上で3時間 より少ない	9.6	12.2	7.0	6.5	11.9	8.9	14.3
3時間以上	7.6	12.0	3.0	7.6	6.9	8.2	28.6
持 っ て な い	3.9	1.5	6.5	2.5	4.6	4.3	—
不 詳	3.1	4.1	2.1	2.2	4.2	2.3	—

注) 1. 「高校生等」とは「高校生」、「各種学校・専修学校・職業訓練校の生徒」の合計である。
2. 「テレビゲーム」には、家庭用ゲーム機のほか、携帯用ゲーム機も含む。

(3) 1日のうち、携帯電話（PHSを含む）を使用する時間

1日のうち、携帯電話（PHSを含む）を使用する時間をみると、「持っていない」42.4%が最も多く、次いで「2時間以上」13.9%、「30分より少ない」12.6%となっている。
学年別に携帯電話やPHSを「持っている」状況をみると、「小学校5～6年生」では2割を超えており、「中学生」では約5割、「高校生等」では約9割となっている。（表22）

表22 1日のうち、携帯電話（PHSを含む）を使用する時間の構成割合

(単位：%)

(平成16年)

時 間	性・学年						
	総 数	男	女	小 学 校 5～6年生	中学生	高校生等	就職・ その他
総 数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
ほとんど使用しない	11.2	12.5	9.9	15.5	12.5	5.6	—
30分より少ない	12.6	11.4	13.9	5.8	11.7	20.4	14.3
30分以上で1時間 より少ない	10.4	8.7	12.2	2.2	7.5	22.4	14.3
1時間以上で2時間 より少ない	6.5	5.2	7.8	0.4	6.0	12.8	—
2時間以上	13.9	11.4	16.5	0.4	10.6	30.6	57.1
持 っ て な い	42.4	46.6	38.0	73.7	47.7	5.9	14.3
不 詳	3.0	4.2	1.7	2.2	4.0	2.3	—

注) 1. 「高校生等」とは「高校生」、「各種学校・専修学校・職業訓練校の生徒」の合計である。
2. 「携帯電話の使用時間」には、通話のほか、メール、ゲーム等も含む。

6 不安や悩み、しつけの状況

(1) 現在持っている不安や悩み

現在持っている不安や悩みの状況をみると、何らかの不安や悩みを抱えている児童は、67.4%となっており、「不安や悩みがある」と答えた者の不安や悩みの内容をみると、「自分の勉強や進路について」が74.3%と最も多く、次いで「自分の顔や体形について」42.9%、「自分の性格や癖について」41.8%となっている。

また、学年別にみると、学年が高くなるにつれて不安や悩みを持つ割合が多くなっているが、特に「自分の勉強や進路について」は、「中学生」では84.7%、「高校生等」では79.7%と最も多くなっている。(表23)

表23 現在持っている不安や悩みの構成割合(複数回答)

(単位：%)

(平成16年)

不安や悩みの種類	総数	男	女	小学校 5～6年生	中学生	高校生等	就職・ その他
総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
不安や悩みがない	32.6	42.9	22.1	44.6	29.2	27.0	42.9
不安や悩みがある	(100.0) 67.4	(100.0) 57.1	(100.0) 77.9	(100.0) 55.4	(100.0) 70.8	(100.0) 73.0	(100.0) 57.1
自分の健康について	(23.3) 15.7	(22.3) 12.7	(24.1) 18.8	(22.7) 12.6	(20.3) 14.4	(28.8) 21.1	(-) -
自分の顔や体形について	(42.9) 28.9	(29.4) 16.8	(53.2) 41.4	(37.0) 20.5	(39.4) 27.9	(53.2) 38.8	(-) -
自分の勉強や進路について	(74.3) 50.0	(71.9) 41.1	(76.1) 59.3	(44.2) 24.5	(84.7) 60.0	(79.7) 58.2	(50.0) 28.6
自分の性格や癖について	(41.8) 28.2	(32.6) 18.6	(48.8) 38.0	(39.6) 21.9	(40.3) 28.5	(45.0) 32.9	(75.0) 42.9
いじめについて	(12.2) 8.2	(10.6) 6.1	(13.4) 10.5	(18.2) 10.1	(14.7) 10.4	(4.5) 3.3	(-) -
自分の友達について	(27.6) 18.6	(17.1) 9.8	(35.6) 27.8	(30.5) 16.9	(28.8) 20.4	(24.3) 17.8	(-) -
自分の性の問題について	(6.9) 4.7	(4.8) 2.8	(8.5) 6.7	(6.5) 3.6	(7.9) 5.6	(5.9) 4.3	(-) -
ボーイ(ガール)フレンド について	(18.2) 12.3	(15.8) 9.0	(20.0) 15.6	(7.8) 4.3	(17.6) 12.5	(26.1) 19.1	(25.0) 14.3
自分の家庭の問題について	(15.8) 10.7	(15.8) 9.0	(15.9) 12.4	(14.9) 8.3	(18.2) 12.9	(13.1) 9.5	(-) -
学校生活について	(29.2) 19.6	(21.6) 12.3	(34.9) 27.2	(24.7) 13.7	(29.7) 21.0	(32.0) 23.4	(-) -
その他	(1.3) 0.8	(1.0) 0.6	(1.5) 1.1	(1.3) 0.7	(1.2) 0.8	(1.4) 1.0	(-) -

注) 1. 「高校生等」とは、「高校生」、「各種学校・専修学校・職業訓練校の生徒」の合計である。

2. 括弧内の数値は、「不安や悩みがある」と回答した者を100%とした構成割合である。(複数回答)

(2) 現在持っている不安や悩みの相談相手

現在持っている不安や悩みの相談相手をみると、「親に相談する」が26.0%と最も多く、次いで「友達に相談する」24.5%、「自分でよく考えて解決に向けて努力する」18.5%となっており、「親に相談する」では、「自分の健康について」43.5%が最も多く、次いで「自分の勉強や進路について」が31.7%、「自分の顔や体形について」が28.1%となっている。(表24)

表24 現在持っている不安や悩みの相談相手の構成割合(不安や悩みのある場合、3つまでの複数回答)

(単位: %)

(平成16年)

不安や悩みの種類	総数	親に相談する	兄弟(姉妹)に相談する	親戚の人に相談する	先生に相談する	友達に相談する	電相す	話談る	インターネット相談する	自分でよく考えて解決に向けて努力する	その他	相談相手はいない	不詳
総数	100.0	26.0	7.7	1.1	9.9	24.5	0.3	1.2	18.5	3.1	6.0	1.6	
自分の健康について	100.0	43.5	8.8	1.1	5.3	13.3	—	1.8	18.6	3.2	3.9	0.7	
自分の顔や体形について	100.0	28.1	9.2	0.8	1.9	20.4	—	1.3	23.5	5.0	8.6	1.3	
自分の勉強や進路について	100.0	31.7	7.6	1.2	19.0	20.9	0.2	0.4	14.2	1.7	1.8	1.3	
自分の性格や癖について	100.0	19.8	8.3	1.2	3.9	27.3	—	1.0	23.8	2.5	9.5	2.7	
いじめについて	100.0	26.4	3.1	1.2	19.0	18.4	1.2	2.5	14.7	3.7	9.2	0.6	
自分の友達について	100.0	19.8	6.7	1.1	8.9	29.8	0.3	1.1	20.6	3.3	6.7	1.7	
自分の性の問題	100.0	19.2	9.0	1.3	3.8	14.1	1.3	5.1	20.5	6.4	15.4	3.8	
ボーイフレンドまたはガールフレンドについて	100.0	9.2	10.5	0.4	2.2	47.4	1.3	2.6	19.7	2.6	3.5	0.4	
自分の家庭の問題	100.0	17.4	9.9	3.5	4.1	23.8	0.6	1.2	15.1	6.4	15.1	2.9	
学校生活について	100.0	22.5	4.9	0.3	10.6	31.4	0.5	1.1	17.6	3.0	6.5	1.6	
その他	100.0	17.6	5.9	—	11.8	41.2	—	—	11.8	5.9	—	5.9	

(3) 父母のしつけについてどう思っているかの状況

父母のしつけについてどう思っているかの状況をみると、父では「どちらともいえない」が26.2%と最も多く、次いで「やや厳しいと思う」が21.8%、「わからない」が16.9%となっている。また、母では「やや厳しいと思う」が31.6%と最も多く、次いで「どちらともいえない」が25.6%、「やや甘いと思う」が14.8%となっている。(表25)

表25 父母のしつけについてどう思っているかの構成割合

(単位: %)

(平成16年)

父 母 の し つ け	性・学年						
	総数	男	女	小 学 校 5~6年生	中学生	高校生等	就職・その他
父 総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
ととても厳しいと思う	6.8	7.7	5.9	5.8	7.9	5.9	14.3
やや厳しいと思う	21.8	21.9	21.7	28.1	22.5	15.5	—
やや甘いと思う	15.5	11.8	19.4	15.5	13.5	18.8	14.3
とても甘いと思う	4.9	4.2	5.5	3.2	5.2	5.9	—
どちらともいえない	26.2	27.8	24.5	30.9	24.6	24.7	14.3
わからない	16.9	18.2	15.6	11.2	17.5	21.4	14.3
お父さんはいない	7.2	7.7	6.7	4.3	8.1	7.6	42.9
不詳	0.7	0.6	0.8	1.1	0.6	0.3	—
母 総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
ととても厳しいと思う	8.9	8.3	9.5	7.6	11.3	6.3	14.3
やや厳しいと思う	31.6	28.9	34.4	41.4	30.2	25.7	—
やや甘いと思う	14.8	14.5	15.0	11.9	14.2	18.1	28.6
とても甘いと思う	2.4	3.3	1.5	2.2	2.5	2.6	—
どちらともいえない	25.6	26.3	24.9	23.4	26.3	26.3	42.9
わからない	14.3	16.2	12.4	10.8	13.5	18.8	14.3
お母さんはいない	1.7	1.8	1.5	2.2	1.3	2.0	—
不詳	0.7	0.6	0.8	0.7	0.8	0.3	—

注) 「高校生等」とは、「高校生」、「各種学校・専修学校・職業訓練校の生徒」の合計である。

7 大切なことと思うこと

大切なことと思うことの状態をみると、「健康であること」が60.6%と最も多く、次いで「友達がたくさんいること」59.8%、「将来に夢を持っていること」48.1%となっている。

性別でみると、男子では「健康であること」が62.8%と最も多く、次いで「友達がたくさんいること」が58.2%となっており、女子では、「友達がたくさんいること」が61.4%と最も多く、次いで「健康であること」が58.4%となっている。

また、学年別にみても、「友達がたくさんいること」、「健康であること」が同様に多くなっている。(表26)

表26 大切なことと思うことの構成割合(3つまでの複数回答)

(単位：%)

(平成16年)

大切なこと	平成16年						
	総数	男	女	小学校 5～6年生	中学生	高校生等	就職・ その他
総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
勉強ができること	21.5	25.0	17.9	27.0	24.0	12.8	14.3
いろんなことを知っていること	12.6	15.3	9.9	9.0	12.7	15.8	14.3
お金がたくさんあること	16.9	19.7	14.1	10.8	16.5	22.7	42.9
友達がたくさんいること	59.8	58.2	61.4	64.7	56.7	60.2	57.1
健康であること	60.6	62.8	58.4	64.0	59.8	58.9	57.1
将来に夢を持っていること	48.1	43.5	52.9	47.1	45.6	53.3	28.6
運動や歌などで、何か得意なもの(特技)があること	32.0	35.0	28.9	29.5	33.1	32.6	28.6
人の嫌がることをすすんでやること	8.0	7.0	9.1	6.1	9.6	7.6	—
勇気を持っていること	34.3	28.0	40.9	38.1	35.4	29.3	28.6
不詳	6.1	5.5	6.7	3.6	6.7	6.9	28.6

注)「高校生等」は「高校生」、「各種学校・専修学校・職業訓練校の生徒」の合計である。

8 困っている人に出会ったときの対応

(1) 電車やバスに乗っていて、自分が座っている席の近くに、お年寄りや体の不自由な人が立っていたときの対応

電車やバスに乗っていて、自分が座っている席の近くに、お年寄りや体の不自由な人が立っていたときの対応をみると、「声をかけて、席をゆずる」が49.9%と最も多くなっており、女子では53.3%と男子46.7%に比べて多くなっている。

また、学年別では、「声をかけて、席をゆずる」が「小学校生5～6年生」では5割以上なのに対し、「中学生」49.4%、「高校生等」45.2%となっており、5割以下となっている。(表27)

表27 電車やバスに乗っていて、自分が座っている席の近くに、お年寄りや体の不自由な人が立っていたときの対応の構成割合

(単位：%)

(平成16年)

対応	総数	男	女	小学校 5～6年生	中学生	高校生等	就職・ その他
総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
声をかけて、席をゆずる	49.9	46.7	53.3	55.8	49.4	45.2	57.1
黙って席を立ち、他へ行く	30.7	34.0	27.3	26.8	33.3	30.9	—
何となく恥ずかしいので、そのままにいる	14.9	13.2	16.7	13.4	14.1	17.3	28.6
別に何とも思わない	4.4	6.1	2.7	4.0	3.2	6.6	14.3

注)「高校生等」とは、「高校生」、「各種学校・専修学校・職業訓練校の生徒」の合計である。

(2) 遊園地で迷子を見かけたときの対応

遊園地で迷子を見かけたときの対応をみると、「自分の家族や係の人のところへ連れていく」が38.7%と最も多くなっており、特に女子では44.8%と男子32.8%に比べて多くなっている。

性別でみると、男子では「知らないふりで、通りすぎる」が17.1%と女子7.7%に比べて多くなっている。

また、学年別では、「中学生」で「気になって、しばらく遠くから見ている」が41.4%と多くなっている。(表28)

表28 遊園地で迷子を見かけたときの対応の構成割合

(単位：%) (平成16年)

対 応	総 数	男	女	小 学 校 5～6年生	中学生	高校生等	就職・ その他
総 数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
自分の家族や係の人のところへ連れていく	38.7	32.8	44.8	40.9	34.2	43.9	28.6
その子の家族が来るまで一緒にいてあげる	11.3	9.7	12.9	14.9	11.3	8.3	—
気になって、しばらく遠くから見ている	37.5	40.4	34.6	35.1	41.4	33.2	57.1
知らないふりで、通りすぎる	12.5	17.1	7.7	9.1	13.2	14.6	14.3

注) 「高校生等」とは、「高校生」、「各種学校・専修学校・職業訓練校の生徒」の合計である。

(3) クラスの誰かが他の子をいじめているのを見たときの対応

クラスの誰かが他の子をいじめているのを見たときの対応をみると、「友達に相談する」が36.2%と最も多くなっており、次いで「別に何もしない」24.4%となっている。

性別でみると、男子では「別に何もしない」が31.9%と女子16.8%に比べて多くなっており、女子では「友達に相談する」が46.2%と男子26.4%に比べて多くなっている。

また、学年別では、「小学生」では「先生に知らせる」が41.5%、「中学生」では「友達に相談する」が40.4%、「高校生等」では41.8%と多くなっている。(表29)

表29 クラスの誰かが他の子をいじめているのを見たときの対応の構成割合

(単位：%) (平成16年)

対 応	総 数	男	女	小 学 校 5～6年生	中学生	高校生等	就職・ その他
総 数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	—
「やめろ！」と言って止めようとする	18.0	22.8	13.1	24.5	16.2	14.7	—
先生に知らせる	21.4	19.0	23.9	41.5	17.9	8.4	—
友達に相談する	36.2	26.4	46.2	23.1	40.4	41.8	—
別に何もしない	24.4	31.9	16.8	10.8	25.5	35.1	—

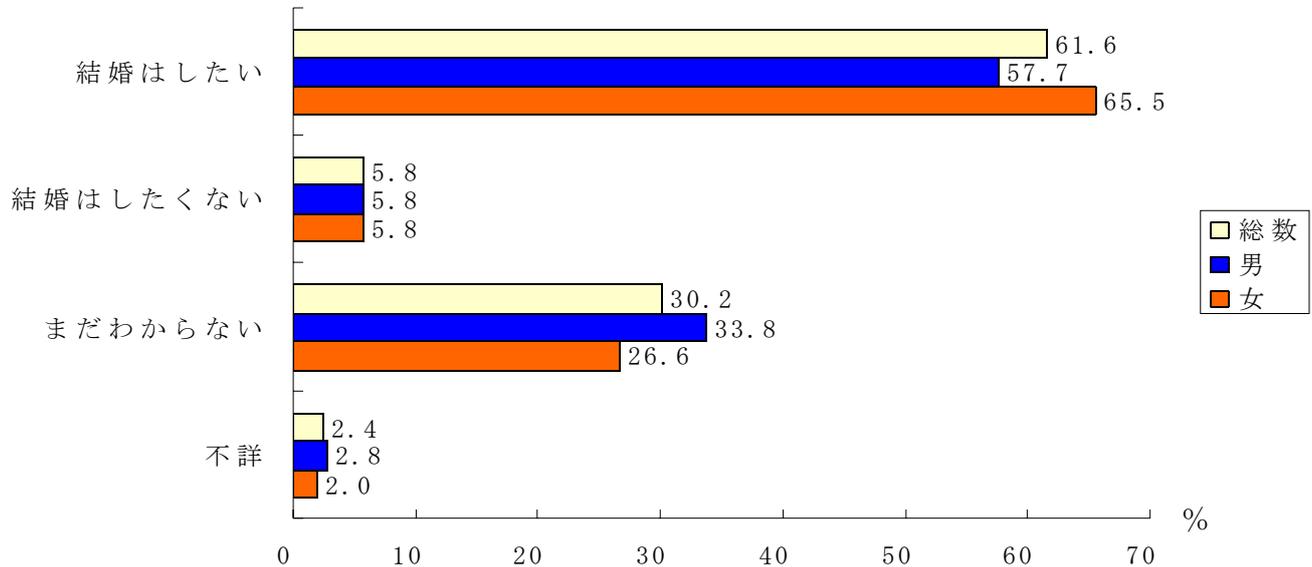
注) 「高校生等」とは、「高校生」、「各種学校・専修学校・職業訓練校の生徒」の合計である。

9 自分の将来と今、幸せだと思うかどうかについての状況（中学生以上）

(1) 将来、結婚をしたいと思っているか（中学生以上）

将来、結婚をしたいと思っているかの状況を見ると、「結婚はしたい」が61.6%となっており、性別で見ると、男子では57.7%、女子では65.5%と男子に比べ多くなっている。（図6）

図6 将来、結婚をしたいと思っているか（平成16年）

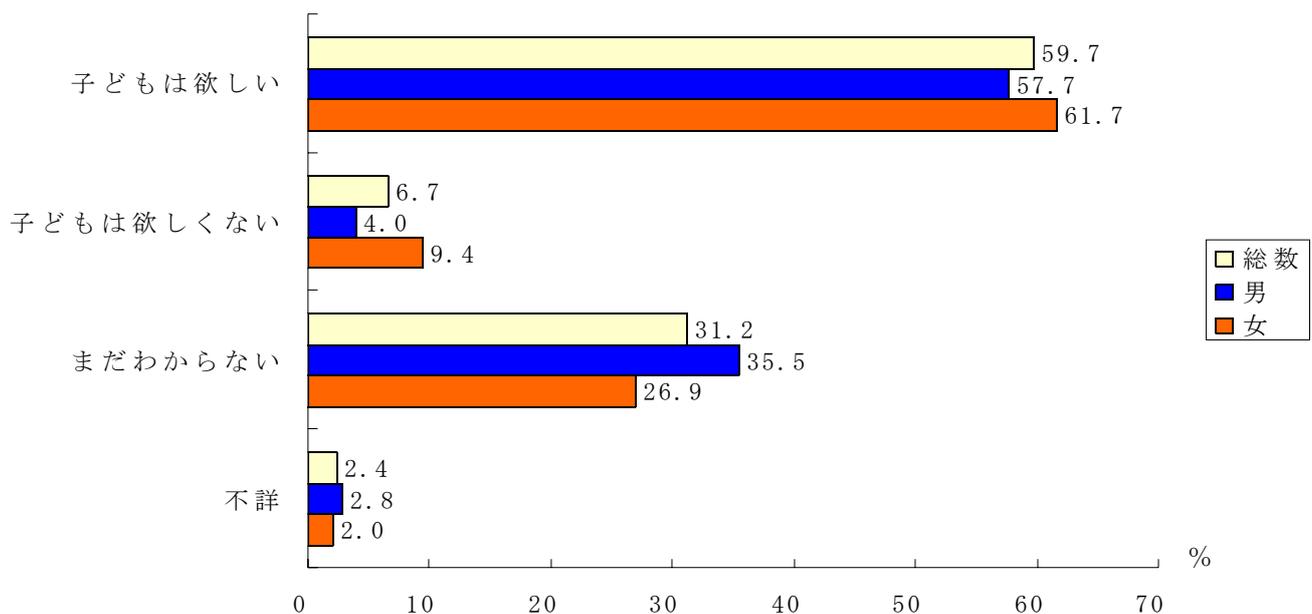


注) 性・学年別は、P26、「参考表2 将来、結婚をしたいと思っているか、子どもを欲しいと思うか（中学生以上）」参照。

(2) 将来、子どもを欲しいと思うか（中学生以上）

将来、子どもを欲しいと思っているかの状況を見ると、「子どもは欲しい」が59.7%となっており、性別で見ると、男子では57.7%、女子では61.7%と男子に比べ多くなっている。（図7）

図7 将来、子どもを欲しいと思うか（平成16年）



注) 性・学年別は、P26、「参考表2 将来、結婚をしたいと思っているか、子どもを欲しいと思うか（中学生以上）」参照。

(3) 今、幸せだと思うかどうか（幸せ感）の状況

今、幸せだと思うかどうかの状況をみると、「とても幸せだと思う」が37.8%と最も多くなっており、「やや幸せだと思う」の34.4%と合計すると、7割以上が幸せであると感じている。
性別でみると、「とても幸せだと思う」は女子が42.6%と男子33.1%に比べて多くなっている。
学年別にみると、学年が高くなるにつれて「とても幸せだと思う」は減少する傾向にあり、「やや幸せだと思う」の割合が多くなっている。（表30及び図8）

表30 今、幸せだと思うかどうか（幸せ感）の構成割合

(単位：%)

(平成16年)

幸せだと思うかどうか	総数	男	女	小学校 5～6年生	中学生	高校生等	就職・ その他
総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
とても幸せだと思う	37.8	33.1	42.6	47.8	36.5	31.6	—
やや幸せだと思う	34.4	37.0	31.7	29.5	34.2	39.1	42.9
あまり幸せだと思わない	7.3	7.0	7.6	5.0	8.3	7.2	28.6
まったく幸せだと思わない	1.1	1.5	0.8	0.7	0.6	2.3	—
どちらともいえない	8.0	9.8	6.3	5.8	8.8	8.6	28.6
わからない	7.7	7.9	7.4	5.8	8.3	8.6	—
不詳	3.6	3.7	3.6	5.4	3.3	2.6	—

注) 「高校生等」とは「高校生」、「各種学校・専修学校・職業訓練校の生徒」の合計である。

図8 今、幸せだと思うかどうか（幸せ感）（平成16年）

